

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 特 許 公 報(B2)

(11) 特許番号

特許第3770618号
(P3770618)

(45) 発行日 平成18年4月26日(2006.4.26)

(24) 登録日 平成18年2月17日(2006.2.17)

(51) Int. Cl.

F I

B 6 5 B 43/26 (2006.01)
B 6 5 B 57/02 (2006.01)B 6 5 B 43/26 B
B 6 5 B 57/02

請求項の数 3 (全 4 頁)

(21) 出願番号	特願平9-508035	(73) 特許権者	カートリット・エイビイエス
(86) (22) 出願日	平成8年8月5日(1996.8.5)		デンマーク国・ディケイ・8200・オル
(65) 公表番号	特表平11-510130		フス エヌ・ピーオー ペデルセンズ ヴ
(43) 公表日	平成11年9月7日(1999.9.7)		エイ・26
(86) 国際出願番号	PCT/DK1996/000335	(74) 代理人	弁理士 山川 政樹
(87) 国際公開番号	W01997/006064	(74) 代理人	弁理士 黒川 弘朗
(87) 国際公開日	平成9年2月20日(1997.2.20)	(74) 代理人	弁理士 紺野 正幸
審査請求日	平成15年6月9日(2003.6.9)	(74) 代理人	弁理士 西山 修
(31) 優先権主張番号	0879/95	(74) 代理人	弁理士 鈴木 二郎
(32) 優先日	平成7年8月4日(1995.8.4)		
(33) 優先権主張国	デンマーク(DK)		

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 冷凍フレームの内張り方法及びそのためのブロックカートンブランク

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項1】

冷凍フレーム内にブロックカートンブランクを取り付ける時、底パネル(2)と、それから上方へ延びる側壁パネルを備えて、側壁パネルの一部に端部方向に突き出たコーナーフラップを設けて、それらを内向きに折り曲げて隣接の側壁パネルの端部分に重ねたライニングカートンブランクが冷凍フレームにはまるようにする方法であって、コーナーフラップの内側に、カートンの内側のその他の表面の外観とは明らかに異なった明瞭な信号色等の表面特徴を設けると共に、冷凍物をカートンに詰め込む前に、いずれかのコーナーに間違った取り付けのコーナーフラップがブランクの内側に面した側部に見えるかを目視または光学的方法で検出することを特徴とする方法。

【請求項2】

底パネル(2)の境界を折り曲げ線(4)で定め、その線の外側へ延びたパネルが立ち上がり可能な側部パネル(6、8、10)を形成しており、その一部に、冷凍フレーム内で立ち上げたカートンブランクのコーナーで内向きに折り曲げられるコーナーフラップ部分(18、20)を設けている形式で、請求の範囲第1項の方法によって冷凍フレームに内張りされるブロックカートンであって、前記コーナーフラップの内側に面した側部にマーキングを付けて、これによってこれらの内側に面した側部を他の側部形成部分(6、8、10)の内側に面した側部の視覚的印象から視覚的に容易に区別できるようにして、ブロックカートンを冷凍フレームにはめ込んだときに、コーナーフラップがカートンの立ち上がった側部パネルに対して外側にあるか、内側にあるかを目視で容易に確認できるように

したことを特徴とするブロックカートン。

【請求項 3】

側部形成部分（6、8、10）の内側に面した側部はブロックカートンのその他と同じ表面外観に見えるようにする一方、コーナフラップの内側に面した側部にそれとは視覚的に異なったマーキング、例えば別の色を付けたことを特徴とする請求の範囲第2項に記載のブロックカートン。

【発明の詳細な説明】

本発明は、冷凍フレーム内にブロックカートンを取り付ける方法及びこの目的に適したブロックカートンブランクに関しており、本発明は、これらのカートンをフレーム内に正確に取り付ける確実性を向上させることを目的としている。本発明は、1996年2月1日に公告されたWO96/02422に記載されている発明に密接に関連しており、それに示されている。問題について述べる。

要約すると、これは、さらなる処理を行う工場へ送られる冷凍ブロックの形の中間製品を形成するために冷凍することが望ましい生鮮食材、例えば魚を入れる冷凍フレームの内張り用のいわゆるブロックカートンの使用に関する。ブロックカートンは簡単なカートンブランクで構成されている。これは、冷凍フレームのサイズに合わせた底パネルと、これから延びる側壁パネルとを有し、カートンブランクを冷凍フレーム内に取り付けることによって、側壁パネルが自然にフレームの内側に沿って直立位置へ立ち上がるようにされた折り目線を備えている。通常は、長辺の側壁パネルの1つを延長して蓋パネルとし、冷凍フレーム内のこのカートンライニングに詰めた後、蓋パネルを内容物の上へ内向きに折られると、ブロックの全側面がカートンによって覆われる。その後、各ユニットは棚形のフリーザ内で冷凍するために搬送される。冷凍フレームから取り出され、輸送用に積み重ねるが、この時にカートン壁パネルは、全体が一体状に凍結しないようにする中間層になると共に、カートンブランク自体が、凍結した内容物ブロックに凍結付着することによって、全体的に安定する。同じ理由から、ブロックカートンは、それらの側部がそれぞれ周囲の冷凍フレームと固定底プレートに当接することによって、また一部にはブロックの凍結自体によって支持されて位置が固定されるため、特別なロック手段を用いずに作製することができる。そのため、ブロックカートンは、コーナフラップロックや糊代を備えたもっと一般的に知られている自立型カートンパッキングと共通の主要特徴をわずかに備えているだけである。

コーナフラップ延出部分がブロックカートンの側壁パネルとつながって現れて、それをコーナーで外向きか、むしろ内向きに折られ、冷凍フレーム内で立ち上がったブロックカートンのコーナーを通る内容物からの液体及び物質の一時的な漏れを阻止できるようにすることが望ましい。内側の位置ではコーナフラップが多少は冷凍内容物の方へ出て、このためそのさらなる処理が非常に困難になるため、これらのコーナフラップを当接側壁パネルの外側の位置へ内向きに折り曲げることが重要である。

WO92/02422の実施形態に、カートンブランクの部分の上記の色マーキングによって、最終製品の側面から見た時に、例えば製品の受け取り人側で、内向きに折り曲げられた部分が正確な位置にあるか否かを検出する方法が示されているが、本発明は特に、組み立て段階でも誤った取り付けを発見できることに焦点を合わせている。

この段階で、作業員には、取り付けられたブロックカートンの内側が見えるので、コーナフラップが正確に内向きに折り曲げられているかを容易に確認できる、すなわち、本発明に従って内側に面した表面のマーキングをそれらに付けることによって、それらが隣接の側壁パネルの内側とは視覚的に変わる。これによって、作業員はコーナフラップが間違った位置にあるかを容易に感知できるため、冷凍する物の詰め込みを開始する前に、すなわち供給側での基本制御によって、すでにこの間違いを補正することができる。

作業員によるこの感知は、主に自動監視システムに置き換えることができ、これは取り付けられたブロックカートンの内側の外観を光学的に検査して、明らかに誤った表示マーキングを有する内部コーナー部分を検出して、コーナフラップが立ち上がったカートンライニングの外側ではなく、内側にあることがわかった時、アラームを作動させる。

次に、図面を参照しながら本発明を説明する。

第1図は、本発明に従ったコーナーフラップを備えた信号カートンブランクの内側の斜視図である。

第2図は、冷凍フレーム内の正しい位置にない信号カートンブランクの斜視図である。

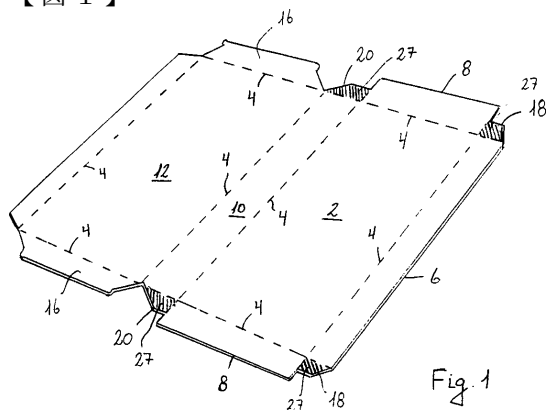
第1図は、WO 96/02422に説明されているものに対応したカートンブランクの内側の斜視図である。図面から明らかなように、コーナーフラップ18、20にマーキング27が付けられており、カートンブランクが冷凍フレーム22内のライニングとして不正確な位置にある場合、それを内側から見ることで、第2図を参照されたい。

カートンライニングの、冷凍フレーム22に面する外側に正確に配置されたコーナーフラップ18、20の場合、マーキング27は立ち上がった側部パネル8で隠れる。

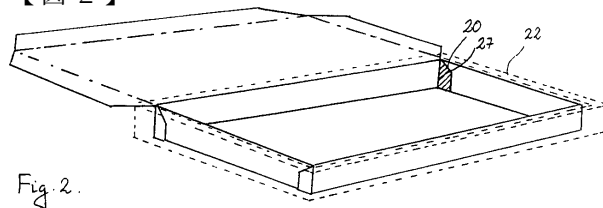
10

これらのマーキングは、WO 96/02422に従って仕上がりブロック製品の対応の外部検査に使用されるマーキングに追加して、非常にうまく使用することができる。

【図1】



【図2】



フロントページの続き

(74)代理人

弁理士 山川 茂樹

(72)発明者 ニールセン, モゲンス

デンマーク国・ディケイー8240・リスコヴ・ストランドマルクスヴェイ・38

審査官 谷治 和文

(56)参考文献 実開昭50-47831 (JP, U)

特開平7-75486 (JP, A)

特開昭57-114428 (JP, A)

(58)調査した分野(Int.Cl., DB名)

B65B 43/26

B65B 57/02

B65D 5/00 - 5/76